

安全と進化を見据えたモノづくり

小川工業株式会社 和歌山県橋本市

小川工業株式会社は、昭和14年、建築用特殊ナット類の切削加工メーカーとして創業。昭和47年に法人成り、昭和61年6月、現社名に変更し現在に至る。

創業以来、高い品質と精度で「小川の高^{たか}ナット」は広く建築業界に知られており、同社の技術開発力を語る小川イズムの原点である。昭和50年代に入って、自動車関連部品を手掛け、昭和59年から本格的に自動車パーツ分野に参入し、独自に開発した加工技術、研究開発により業容の拡大を図っている。

また、ISO14001の認証取得を機に、さらなる環境負荷の少ない製品づくりを推し進め、循環型社会の構築に取り組んでいる。

会社概要



会社名：小川工業株式会社
所在地：和歌山県橋本市隅田町
真土 39
電話：0736-32-2225 (代)
FAX：0736-32-7150
設立：昭和47年(創業：昭和14年)
代表者：代表取締役社長 佐々木 惣太郎
資本金：2,000万円
従業員：160名
事業：自動車・建築部品製造販売

URL：<http://www.ogawa-industry.co.jp/>



本社社屋

社会の変化に柔軟な対応により成長・発展

同社は、昭和14年に大阪市西成区で個人企業として建築用ナットの製造を開始。

昭和42年、阪神高速堺線工事による立ち退きで、橋本市の現在地に移転。昭和47年に小川ナット工業株式会社として法人設立。昭和61年6月に現社名に変更し、主に、自動車・建築用部品の一貫加工メーカーとして、生産技術の向上に努めている。

同社は、創業以来常に社会の変化を受け入れ、業界に先駆け新しい加工技術の開発に努め、顧客と共に成長してきた。特に、平成8年から取り組んできたTPM活動(全員参加の生産保全活動)と、平成16年から導入しているMBO活動(目標管理=チャレンジ目標とセルフコントロールによるマネジメント)の相乗効果により、財務面を含め同社の総合的な体質改善が外部から評価されている。

実際に、ここ数年来Tier1と呼ばれる自動車一次メーカーへの納入実績を拡大、売上アップを達成しながら、ライバル企業の海外展開にも遅れをとらない企業体質の構築を行ってきた。その結集として、平成19、20年にアイシン・エイ・ダブリュやジャトコなど大手ミッションメーカーより連続して各品質賞を受賞し、また昨年11月には同社の永年にわたる事業活動を通じ健全経営に基づく適正申告と納税義務を果たしたとして、地元税務署より優良申告法人の表敬状も授与された。

佐々木社長は「恒常的な現場の改善により、ロスをなくし、新工法、独自の機械設備の改良を重ねることにより、安価で高品質な製品づくりを目指しています。そのための原動力となっているのは、従業員の地道な努力であり、一級技能検定資格取得(厚生労働省)等、人材育成には特に力を注いでいます」とコメントしている。

次代に先駆ける独自の発想と技術開発力

同社が独自に開発したファインプレス技術と永年培ってきたパーツホーマー技術は、サスペンションやシートベルト関連からオートマチックトランスミッション部品まで自動車の様々な分野で採用されている。

ファインプレス：一般プレス機で厚板の精密打ち抜き加工を可能にし、数々の自動車部品のニーズに応えられ、さらにローコストを実現している。ファインプレス技術は、



和歌山県の「1社1元気技術」に認定登録されている。

パーツホーマー：様々な異形製品加工を可能にする横型の多段式鍛造機で、大量生産において優れたコストパフォーマンスを発揮する。



厚い信頼を培う高度な品質管理システムにより提供される高品質・高精度な製品例

同社では、ユーザーに安心して製品を使用していただくために、単独の品質保証部（9人体制）を設置、最新の測定器を導入するとともに、社内においては品質教育や人材育成を徹底し、全社をあげて品質の向上と管理に取り組んでいる。

また、平成8年より「TPM活動（企業の体質改善活動）」に取り組み、TPM優秀賞第2類（ファスナー業界初）、優秀賞第1類、優秀継続賞第1類をそれぞれ平成11、14、18年に受賞している。

○自動車部品

〈ポールパーキング〉

オートマチックトランスミッションの内でブレーキの役割



をする重要保安部品。熱間鍛造の素材をファインプレスで加工することにより剪断面100%を実現している。

〈ギアパーキング/クラッチ部品〉



ギア部品の精度は、JIS4級相当まで確保可能。熱間素材のメリットを生かして、

後工程での切削をなくするなどのコストダウンの提案も可能。

○建築部品



高ナット



特殊品

「小川の高^{たか}ナット」と呼ばれるほど歴史を誇る製品で、様々なサイズを常時在庫し、多くの建造物等に使用されている。

先を見据えた地道な投資や技術開発

佐々木社長は「私どもの主要得意先である自動車関連は昨年7月から米国工場の操業停止、8月後半からは本格的な生産調整に入り極めて厳しい状況にあります。しかしながら、先を見据えた投資や技術開発を地道に続けていく中で、次なる勝機を見出していきたい」旨コメントしている。

同社は、このような状況下においても、雇用調整、人件費のカットを行わず、さらには、地域に密着した企業として、地元の発展にも寄与するために、平成24年に地元橋本市が誘致している工業団地に新工場着工を計画している。

この計画には、下請け協力会社も参加予定しており、コラボレーションによるさらなる技術開発の促進と、グローバル化への対応を推し進める方針である。

（鶴山吉永、丸尾尚史）